

CONTENTS

| | |
|------------|---|
| 研修概要 | 1 |
|------------|---|

| | |
|------------|---|
| 研修日程 | 3 |
|------------|---|

| | |
|-------------|---|
| 参加者の声 | 8 |
|-------------|---|

参加教員による授業実践

■小学校

| | |
|---------------------------|----|
| 安達 祐佳 (大阪市立大宮小学校) | 10 |
| 片上 綾子 (摂津市立鳥飼北小学校) | 18 |
| 中村 寛子 (神戸市立兵庫大開小学校) | 24 |
| 船曳 妙子 (奈良市立青和小学校) | 31 |
| 堀居 真帆 (高島市立マキノ南小学校) | 37 |
| 吉川 優 (神戸市立桜の宮小学校) | 44 |

■中学校

| | |
|-----------------------------|----|
| 北山 理加 (大阪市立玉津中学校／社会科) | 53 |
| 兒島 正子 (吹田市立豊津西中学校／美術) | 65 |

■高等学校

| | |
|-----------------------------------|----|
| 北村 啓明 (立命館守山中学校・高等学校／数学) | 75 |
| 高市 佳名子 (大阪教育大学付属高校池田校舎／外国語) | 83 |
| 二宮 宏樹 (兵庫県立明石西高等学校／外国語) | 92 |
| 峯川 昇二 (奈良県立法隆寺国際高等学校／外国語) | 99 |

■大学

| | |
|-------------------------------------|-----|
| 上田 安希子 (国立大学法人京都教育大学) | 112 |
| 松居 勇 (大阪府立大学 ボランティア・市民活動センター) | 122 |



JICA の開発教育支援事業

独立行政法人国際協力機構(JICA)は、開発途上国における事業で培った経験を基に、日本社会に対する開発途上国に関する「知見の還元」、世界の現状・課題に向けて自分に何ができるかを「考える機会の提供」、および地域の開発教育推進に向けた「橋渡し役」の3点に重点を置き、国際理解教育／開発教育の支援に取り組んでいます。

JICA 関西では、教育委員会や教員の皆様、大学や自治体、NGOの皆様と連携しながら所管地域である近畿2府4県(大阪府、兵庫県、京都府、奈良県、和歌山県、滋賀県)を対象に、国際協力出前講座や、JICA 関西施設訪問、教師海外研修、開発教育指導者研修等のプログラムを広く展開し、地域での開発教育・国際理解教育を支援しています。

本「教師国内研修」は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、2020年度、2021年度においては海外研修を実施する事ができない事から、その代替事業として実施したものです。

教師国内研修とは…

I.研修概要

■研修目的

開発教育・国際理解教育に関心を持つ教員や教育関係者を対象に、主に関西圏内における多文化共生、地域の国際化を学ぶオンラインワークショップを実施し、これらの現状・課題に対する自身の理解を深め、その知見を生かした授業実践案を各参加者で作成いただく事を目的とした研修です。

参加者自身が研修を通じて学んだ内容や作成した授業案を、学校現場での授業等を通じて実践いただき、次代を担う児童・生徒の教育に役立ててもらい、同時に開発教育・国際理解教育の実践者として活躍いただくこともねらいとしています。

■主催

独立行政法人国際協力機構 関西センター(JICA 関西)

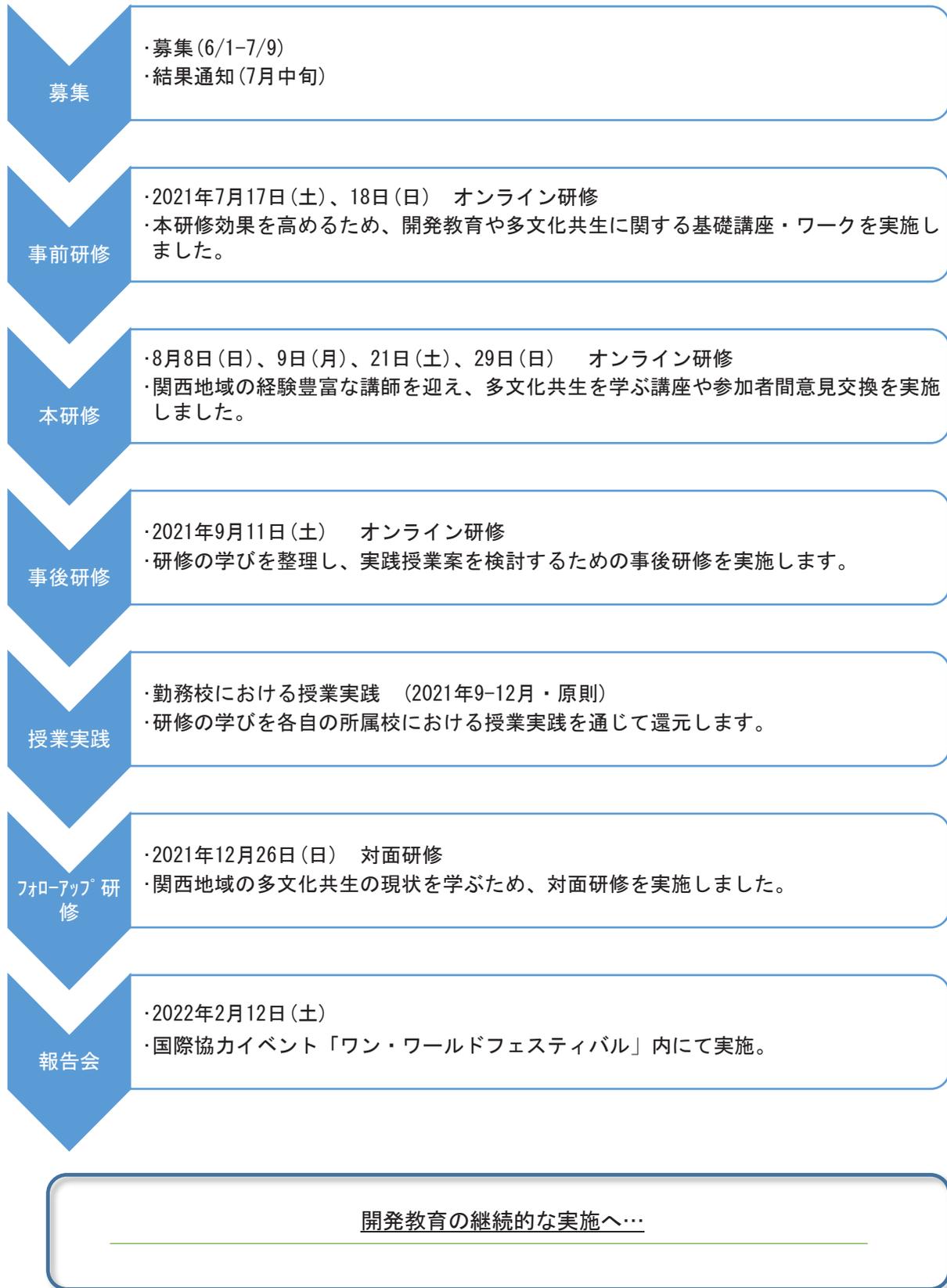
■後援

近畿2府4県ならびに政令指定都市の教育委員会

■参加人数

近畿2府4県の学校教員ならびに教育関係者 14名

II.2021 年度研修の流れ(全体スケジュール)



研修日程

研修プログラム

事前研修

実施日：2021年7月17日(土)、18日(日)

場所：オンライン(zoom)

目的：①研修目標の理解 ②開発教育・国際理解教育の基礎を学ぶ ③国内多文化共生の基礎を学ぶ

1日目：7月17日(土)

| 時間 | 内容 | 講師／担当 | ねらい |
|---------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10:00 - 10:40 | <u>オリエンテーション</u> ・自己紹介 ・JICA 事業概要・研修の目的 | JICA 関西 市民参加協力課 後藤田 蒔子 | ・研修を共にする参加者と JICA 関係者について知る ・研修の趣旨目的について理解する |
| 10:50 - 12:00 | <u>講義&ワーク</u> <u>「開発教育について ①」</u> グループワーク： 開発教育とは？SDGs とは？ | (特活) 開発教育協会 理事 佐藤 友紀 氏 | ・開発教育とはなにか、ミニレクチャーとワークで理解する |
| 13:00 - 14:10 | <u>講義&ワーク</u> <u>「開発教育について ②」</u> 手法の体験：フォトランゲージ | (特活) 開発教育協会 理事 佐藤 友紀 氏 | ・開発課題を教材化するためのヒントやコツについて授業で活用できるワークショップを通じて学ぶ。 |
| 14:20 - 15:00 | <u>講義&ワーク</u> <u>「多文化化する日本」</u> 在留(登録)外国人数の推移、 国別内訳、在留資格紹介など | (特活) 開発教育協会 理事 佐藤 友紀 氏 | ・日本国内における外国人市民増加背景や在留資格について、現状など基礎的な事項を学ぶ。 |
| 15:10 - 16:10 | <u>講義「地域の多様な子ども達の学び合い」</u> 国内の外国にルーツを持つ児童に関する現状やそれを取りまく国の方針、取り組み、必要な支援(母語教育の重要性) | 名古屋外国語大学 教授 /NPO 多言語センター FACIL 代表 吉富 志津代 氏 | ・日本国内において、特に外国にルーツを持つ児童に何が起きているのかを知り、教育現場や教員の役割について考える(セミリンガル、ダブルアイデンティティ、母語教育の重要性、外部団体との連携など) |
| 16:20 - 17:00 | <u>ふりかえり</u> | (特活) 開発教育協会 理事 佐藤 友紀 氏 名古屋外国語大学 教授 /NPO 多言語センター FACIL 代表 吉富 志津代 氏 | 学びの整理、スケジュール確認 |

2日目：7月18日(日)

| 時間 | 内容 | 講師／担当 | ねらい |
|---------------------|-------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10:00 - 12:30 | <u>講義&ワーク「文化とは何か」</u> 多文化共生の考え方やアイデンティティについて、「多文化共生」を題材とした新聞記事を通じた意見交換 | 川崎医療福祉大学 教授 山中 信幸 氏 | 研修1日目のプログラムを振り返り、多文化共生や個人のアイデンティティに関する考え方、概念について理解を深める。 |
| 13:30 -16:00 | <u>講義&ワーク「外国人の人権と多文化共生社会」</u> 日本で“外国人”になるということや共生社会の実現に向けて必要な取り組み | 川崎医療福祉大学 教授 山中 信幸 氏 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本における多文化共生の理想や現状について理解を深める。 ・本研修開始に向けた参加者の関心事項、視点を定める。 |
| 16:00- 16:30 | <u>事務連絡</u> 研修スケジュール・提出物確認等 | JICA 関西 市民参加協力課 後藤田 蒔子 | 本研修プログラムの確認、事後提出物の確認 |

本研修

実施日：2021年8月8日(日)、9日(月)、21日(土)、29日(日)

場所：オンライン(zoom)

目的：①地域における多文化共生推進取り組み紹介、関係者へのインタビューを通じて地域の現状、世界との繋がりについて理解を深める。

②学校現場、地域における多文化共生推進に向けて必要な教育活動、実践授業内容を考える。

1日目：8月8日(日) テーマ「送り出し国の事情を知る」

| 時間 | タイトル | 講師 | 目的 |
|-------------|-------------------------|----------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 13:00-14:30 | 技能実習制度の現状と課題 | 神戸大学大学院 国際協力研究科 准教授 齊藤 善久 氏 | 技能実習制度の概要、課題を知り、国内の現状について理解を深め、参加者との意見交換を通じて、社会のあり方を考える。 |
| 14:45-15:45 | 企業による外国人雇用現状 | (株)鶴見製作所京都工場 生産管理グループ総務課 課長 山本 和子 氏 | 技能実習生を受け入れる企業や技能実習生との意見交換を通じて、自分たちの社会を支える外国人について理解を深め、社会のあり方を考える |
| 16:00-17:00 | 送り出し国の事情 | JICA 海外協力隊 甲藤 瞳 氏 (ラオス・日本語教育) | 現地と接続し、協力隊活動や日本語を学ぶ生徒の紹介などを通じて、外国人材来日背景や出身国の事情、日本の支援について理解を深める。 |
| -17:30 | ふりかえり (学びの整理、気づきの共有) | 川崎医療福祉大学 教授 山中 信幸 氏 (特活)開発教育協会 理事 佐藤 友紀 氏 | 研修内容の学びを整理し、参加者間で気づきを共有する。研修内容から教育現場へ伝えたいポイントを考える。 |

2日目：8月9日(月) テーマ「地域の外国人事情・コミュニティを知る①」

| 時間 | タイトル | 講師 | 目的 |
|-------------|-------------------------------|---------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 13:00-14:30 | 外国にルーツを持つ子供達が日本で前向きに生きる為には | インフィニティ(株) 代表取締役 上森 秀夫 氏 | 外国にルーツを持つ子供達が日本で前向きに生きる為に必要な取り組み、考え方について学ぶ。 |
| 14:45-15:15 | 滋賀県国際協会による外国にルーツを持つ児童生徒支援取り組み | (公財)滋賀県国際協会 副主幹 大森 容子 氏 | 国際交流協会の外国にルーツを持つ児童に向けた支援取り組み事例紹介から、日本の学校現場の現状について理解を深める。 |
| 15:30-17:00 | 多文化共生教材体験 | 国際教育研究会 Glocal Net Shiga/ 滋賀大学教育学部附属中学校 教諭 倉 公一 氏 | 多文化共生の意識をはぐくむための教材を体験し、参加者間の意見交換を通じて、学校に必要な教育を考える。 |
| -17:30 | ふりかえり (学びの整理、気づきの共有) | 川崎医療福祉大学 教授 山中 信幸 氏 (特活)開発教育協会 理事 佐藤 友紀 氏 | 研修内容の学びを整理し、参加者間で気づきを共有する。研修内容から教育現場へ伝えたいポイントを考える。 |

3日目：8月21日(土) テーマ「地域の外国事情・コミュニティを知る②」

| 時間 | タイトル | 講師 | 目的 | キーワード(一例) |
|-------------|--------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|
| 13:00-15:00 | 外国人によるコミュニティ、外国人支援者による支援 | (特活)たかとりコミュニティセンター 専務理事 日比野 純一 様 常務理事 吉富 志津代 様 理事 大城 ロクサナ 様 | 外国人コミュニティの取り組み事例や当事者へのインタビューを通じて、地域と連携した取り組みや外国人定住者による外国人支援について理解を深め、外国人コミュニティと地域、学校の連携について考える | 外国人ネットワーク、地域との連携、定住者による支援 |
| -16:30 | ふりかえり (学びの整理、気づきの共有) | 川崎医療福祉大学 教授 山中 信幸 氏 (特活)開発教育協会 理事 佐藤 友紀 氏 | 研修内容の学びを整理し、参加者間で気づきを共有する。研修内容から教育現場へ伝えたいポイントを考える。 | - |

4日目：8月29日(日) テーマ「地域の外国にルーツを持つ児童の状況を知る」

| 時間 | タイトル | 講師 | 目的 | キーワード(一例) |
|-------------|-----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|
| 13:00-14:30 | 外国人児童・生徒の置かれた環境、現状 (支援教室の事例から) | Minami 子ども教室 実行委員長 金光敏 氏 | 実際に多国籍の児童らが在籍する学校や支援教室の活動内容、地域との連携について理解を深め、外国にルーツを持つ児童の置かれた現状、必要な支援について考える。 | 外国人児童支援、外国人と共生する地域づくり(学校と地域連携)、セーフティネット |
| 14:45-16:15 | 多文化共生の学校づくり(経験共有) | ・元兵庫県立湊川高等学校長 水畑 哲也 氏 ・立命館大学 講師 山田 文乃 氏 (元大阪市立小学校指導教諭) ・神戸市立港島学園 教諭 石動 徳子 氏 | 関西圏内の学校で多文化共生の学校づくり(児童支援、授業実践)を行う教員複数名より実践内容を共有し、参加者との意見交換を通じて、学校や教員のあり方について考える。 | 外国人児童支援、国際理解授業実践、学校と地域の連携 |
| -16:30 | ふりかえり (学びの整理、気づきの共有) | 川崎医療福祉大学 教授 山中 信幸 氏 (特活)開発教育協会 理事 佐藤 友紀 氏 | 研修内容の学びを整理し、参加者間で気づきを共有する。研修内容から教育現場へ伝えたいポイントを考える。 | - |

参加者の声

研修に参加された先生方の感想(一例)をお届けします。

多文化共生における日本の現状が、思った以上に進んでいないのだと実感しました。

自分が関わる子供たち、そして大人も含め、多くの外国人の方と関わる中で相互理解の気持ちを大切にできるよう、今日学んだことを伝えていきたいです。また、今は日本人だけのクラスですが、その中で一体どれだけそれぞれの「文化」を尊重できていただろうと考えさせられました。今までの当たり前にとらわれず、子供たちが楽しく居心地よく学べる環境を模索していきたいです。

在日外国人の方の生活について広く学ぶことができました。実際に日々学校で会っている生徒と照らし合わせて考えると、担任として彼らに貢献する方法がまだまだあることに気づきました。これから出会う生徒も含め、誰1人も取り残さないことを念頭に置き教育を通して貢献したいと思えます。

多くの先生方とつながりが持てたこと。新しい考え方を知ることができたこと。オンラインのワークの方法や技術的なことを知ることができたこと。教育に対する熱意を共有でき、エネルギーの充電ができたことなど、(研修に参加した利点は)多岐にわたります。

今回の、どの研修でも感じたことは、「知らないことが差別に繋がることもある」ということです。

小学校の教員としては、学年に合った多文化共生学習に取り組む中で、なるべく低年齢のうちから様々な事柄に触れられるよう、「世界にはいろいろな国があって、それぞれに文化や生活のありかたがある。」ことを知ってもらい、それが当たり前であるという感覚を身に着けることができればいいなと思います。

技能実習制度に関する様々な課題や日本で暮らす外国にルーツを持つ方々の支援など、多文化共生を実現するにあたって解決すべき課題がたくさんあることを学ぶ貴重な研修だった。

私自身不勉強で、これからも学び続けなければならないことが山積していることに気づかされ、学校という組織で働く教員として自分には何が求められているのか、改めて考えさせられる時間だった。

様々な場所で頑張っておられる先生方とつながることができたことが何より嬉しい。

日本に住む外国人の人権と多文化共生社会について、外国人の人々が「日本で生きる」ことの良さと課題を多様な視点から考えることができた。課題解決に向けて、子どもたちに歴史や正しい知識や情報を学び、学んだことを形として生み出し、発信していけるような授業を行うことの重要性を感じた。研修全体から私たちの社会を見出し、問い直すきっかけとなったことが自分自身の大切な学びとなった。この学びを子どもたちにも伝えていけるように、これまでの教員としての学びや経験をふまえ、「多文化共生」を切り口に、さまざまなことにチャレンジしていきたいと思った。

研修を受ける前までは、日系人や、在住外国人、技能実習生の支援は国・政府が行っていると思っていました。しかし、公的な支援は十分ではなく、「インフィニティ株式会社」や「株式会社鶴見製作所」のような企業の善意や取り組み、「滋賀県国際協会」のような公益財団法人の協力によって成り立っているのだと初めて知りました。
どうすれば様々なルーツを持つ人々が互いを認め合って暮らせるのか、そのために自分は何ができるのか、これからも考え続けていきたいと思っています。

「世界とつながろう」という（よく語られる）ニュアンスについて、海外に目を向けるばかりではなく、自分たちの身の回りで暮らす、多様な文化的背景をもつ人たちの存在も意識する事、その人たちが心地よく日本社会で生活するためには何が必要なのかを慮る事について、まずは学生たちに伝えたいです。

外国にルーツのある児童生徒や保護者をサポートする方々が地域でどのような活動をされているのかということについて具体的に知ることができ、また、私たち教職員が視野を広げて共に関わることの必要性を感じた。

【全ての子どもたちが過ごしやすい環境にしていくために】
学校や社会が外国にルーツがある児童が、過ごしやすい環境になることは、全ての児童（障がいがある・家庭に課題を抱えるなど）が健やかに成長できる環境になるのではないかと思います。国際教育と聞くと、大きな問題であり、自分事として捉えることが難しい児童もいると思いますが、人権教育の1つとして色々な国があることを知るところから始めていくところから始めていきたいです。